



大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和2(2020)年
7月号

通巻599号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 令和2年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監製
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



「家路」 奈良市 和田保さん撮影

昭和51(1976)年7月23日 月次祭法話より

人間的に向上するよう自分を^{れんま}錬磨していく

法主 矢追日聖 (満65歳)

東光大祭のお知らせ

随分暑うございますので楽に座って団扇でも使ってください。扇風機ちよつと止めとこかー 私ね、これあるとみんなの気持ち散漫になるような感じがするんです。上の方(瑞光院)も暑いんですけれども扇風機は使っておりません。

前もって申し上げておきますと、今年の東光大祭は八月の三十日にあたるらしい。必然か偶然か知りませんが、毎年旧七月十五日、旧のお盆と同じ日にあたっております。いつかの『大倭新聞』にも東方の光というように書きましたけれども、天に奇瑞の現れた記念日になっております。

言葉や文字で表せないうこと

いつもお祭りに参加される方は、同じ話を何回も聞いて飽き飽きされておられるかも知れませんが、初めての方は「大倭で何か得るところないかしら? どういう宗教かしら?」と、求めるものを持つておると思うんです。

毎月の『大倭新聞』の「大倭千一夜」には、霊的なことを書いているんですが、これは私自身が今日まで色々な面において体験してきたことを素直に出してあげるだけなんです。皆さん方は別に信じなくてもいい。その代わり、疑うというの根拠が無いはずなんです。言い換えれば、「矢追日聖にはそういうようなことがあ

ったんだな」という程度に認識さえしてもらえばいいんです。

しかし、心霊科学のようなものももう少し発達してくれば、「色んな霊的なことを、自分の肌で体得した人やな」ということが分かる時代が来ると思うんです。そういうような日のために、事実を正直に書いておるんですから、今の時代としてはちょっと眉唾物のような内容ばかりなんです。

『すさのお』の方にも色々書いてはおるんですけども、本当のことは書かれません。それなら「嘘、書いてるんか」と言うと、こういう宗教の体験、味でもって感じ取るような話しは矛盾だらけなんです。昨年私が言ったことと今年言うことと違っていることもあると思うんです。ということとは、同じ内容であっても、相手によって話しは変わるんです。それは何も悪い意識で言うんじゃない、えらいおこがましい話しですけれども、相手の人間的な向上のために引き上げていく意味において、真実を言い表せない場合があるんです。神の心と言いますか宇宙の法則は、数学や理屈のように割り切って言えないんです。私が色々書いておる中において皆さん方がちょっと首をひねる面もあるかもしれません。例えば『大倭新聞』の「やわらぎの黙示」ですが（昭和40年4月発行第9号、野草社刊『やわらぎの黙示』所収）、しながらというような内容を、文字で表そうと最大限に努力したんですけれども、私は文学的才能に乏しいから、真実を表すことはなかなか出来ないんです。

けれども昨月、東京のフェイスという出版社が出してくれた『紫陽花邑』という単行本で、大倭のことと私の終戦までの半生のことが記されている場合などは、これまで私の歩んで来た足跡、歴

史というような事実を縮めて書いておりますから間違いがないんです。

過去における宗教の教祖とか宗祖とかの、色んな悟りでも書き残されています。その場合には、文章化した文字を通して知識で解釈するのであって、そういう偉い人と同じだけの体験をしていないから、我が自身の肉体を通じた体験は伴っていきません。

幸い私はまだ生きておるんですから、私から何か求めるために、例えば一年、五年、十年、二十年、毎日一緒に飯を食って、一緒に寝起きて、常に注意を払って一挙手一投足に至るまでも監視するとか、感じ取るというような生活の仕方をした場合、今日まで私が色々書いてる文章とかでは表せないものまでつかんでもらえると思うんです。

学者であるか宗教人であるか

私は宗教の学者でもないし哲学者でもありません。大体私の性格からすると理屈言の嫌なんです。私が、本当の宗教としての活動を開始したのは終戦の日ですが、その時に霊界から言われたことがあるんですね。「一生のうちになった一人でもいいから人を完全に救うことが出来たら、宗教人として及第だ」と。

私はまだ完全に救った自信はありませんから、一人前の宗教人とは言えないんです。最初、出発の時にそういうようにガチッと試験されたけど、それは難しんでキャンとして今でも参ってるんですよ。

で、その時考えてみたんです。どれだけ知識があろうとも、小難しい理屈を言い並べる能力があったとしても、一人の人間を完全に救うことが出来ないようでは宗教人としての資格は無いんだ

と。私もある程度理屈も考え、哲学的なことも言うてみたことがあります。それらはあってもいいんだけど、実際仕事にかかった場合にそれを使うのであれば、学者であって宗教人じゃないんだと。世間の宗教家と称しておる人を今日まで私が見てきてる範囲では、哲学者に近い人が殆どだと思うんです。

実際の宗教的活動までの、自分自身を錬磨して人間的な向上をはかるような時には、知識の面においても訓練があるんですから、やはり学問も哲学も必要だし、昔の人の書いて残された物を読んで勉強することも結構なんです。けど、それにこだわっておる間は本当の宗教人じゃないと私は思うんです。

私は世間の人と言う程度の「救う」ということであれば、もう今日まで数知れんくらいしてきてます。人を助け、喜ばせ、人のためになるようなことですが、ある意味においては自己満足かもしれないから本当の救いじゃないんですよ。こんな小難しい話しは余談ですからね、最初に戻ります。

祭りの本来の意味

東光大祭から出発しました。人間、初歩はある程度知識で求めるのは順序ですから、祭りということについてお話しすると、宗教の世界では「待つ」ということなんです。現界の我々人間がいわゆる神さん（※霊界人）を待つ、また霊界の側も現界人を待つておる。「待つ」が、「まつり」「まつりごと」「まつろい」というように大和言葉が色々変化するんです。

今日は大倭の七月の月次祭、お祭りなんです。我々人間世界においては一堂に集まって、こんな

ふううに三方などにちよっと供え物してます。けれども、これは本当の加美さま(※自然神、法主さんはこのような文字で表された)のためにするんじゃないんですよ。霊界人のためにするんですよ。このお下がり(お下がり)は生きてる人間が食べるんですよ。形だけです。心を供えるというのかね。

世間の宗教なんかに行っておられる方は面くらうかもしれませんが、この祭りというものは、我々人間が神さんを祀って神さんに祈って、願い事を聞いてもらうような厚かましいのとは違うんですよ。それをあなた達、よく頭に入れてくれないと不幸になりますよ。

「まつる」は「まつろう」ということで、お互いに付いて行くことなんです。

この間の『すさのお』(※『大倭新聞』と並行して発行されていた。昭和41年2月発行第2号「自然神と人格神」。平成14年1月号『おやおやまと』再録)に説明をしておきましたが、自然神というのは、我々人間から見ても、また霊界人から見ても加美さんなんです。肉体を持つてる我々人間は現界人です。また肉体を持つておらない霊魂だけの人間を霊界人、霊人、人格神とか言うんです。それがいつも同居してるんです。大倭に來られたならば、実感として感じ取ってほしいんです。けれども霊界人は、現界人の肉眼を通すと見えません。目に見えないものなんか、感じる人以外無理ですから、信じてくれとは言いません。

今自分が持つておる肉体は家屋と一緒に、入れ物なんです。この中に入っておる自分の幽体、霊魂なら、相手と同じ肉体の無い人間同士だから見えるはずだし話しも出来るはずなんです。けれど、今言いましたように入れ物の加減がちよっと悪いんで、そういうような者同士が一堂に集まってる

るのが祭りの姿なんです。霊界の人達のために、こうして現界にある物を供えて歓迎しております。

霊界は現界と違って楽なんです。やつぱり飯は食いよりますねんけど腹の大きいなる食い方と違ってます。こりやまあ言うたつて分かりませんが、ここの一匹の鯛でも、何万人の霊界人が来ても全部分けて食べるんですよ。またキユウリ一つでも同じ。不思議な世界なんです。こんなことは浦島太郎の竜宮みたいな話として聞いてもらいたいです。ところが姿の持つておる人間の方はそうはいけません。二人もおつたら鯛一匹みな食うてまいよるわね。

霊界の方からも、ここにおる我々のために色々な物を供えてくれとるんですよ。あんたらに見えないだろうけど私には見えるんですよ。こんなちっぽけな鯛じゃありませんよ、もつとでつかいの。大倭には出雲から鯛が来るのもう決まっています。南九州とかの山岳地帯はね、キジとかイノシシとかシカとか獣(けもの)を供えてくれるんですよ。それを我々は食えませんけど。

大倭の霊界人は、出雲であろうが日向(ひゅうが)であろうが、そこらの霊界人とちゃんと交際してとるんですよ。人間と同じことなんです。

日本神道の間違い

ところが今までの日本の神ながらとか神道を唱えておる人達がですよ、霊界人というものを天地自然の加美さまと同じように扱(あつか)うから、事が間違ってくるんですよ。今私が言うように、ただ肉体的なだけの人間を捉えてね、唯一絶対の本当の加美だというような感覚で今日まできてるんですよ。

例えば伊勢神宮には、天照大御神(あまてらすおみかみ)がお祀りしてあることになっております。我々日本民族の祖神として、天照大御神であつても須佐之男命(すさのおのちみこと)であつても、どんな名前でも構わないんですよ。けれども、とにかく血の繋がった先祖、我々の祖神であるならば、肉体を持つておらない霊界人なんです。

そういうものを捉えて、昔の話で今は違いますが、官幣大社(かんぺいだいしゃ)とかいう格式を付ける。例えば関東の方へ行くと大宮に氷川神社(ひかわじんじゃ)というのがあります。ここは明治天皇が参らばつたから官幣大社で、富雄のこらに須佐之男命(すさのおのちみこと)が祀つてあるとしても、ちっぽけやから村社(むらじや)だと、人間が偉そうに神さんに資格を付けるんですよ。そういうような冒瀆(ぼうとく)を、過去の日本神道は平気でやってきたんですよ。

天照大御神は我々と全然違う偉い神さんだということになってるから、今あなた達が伊勢神宮へ入ろうとしても、「ちよっと待てー」言われる。ところが大臣(だいじん)やとか天皇陛下(てんこうてんか)が行つたら、奥へと連れて行く。同じ我々の親に対して、なぜ人間勝手にそんな差別をするかという問題なんです。

なるほど伊勢神宮は、民族の祖廟(そま)だから、我々が崇敬(くわんげん)しなきゃいけない。これをおろそかにすることは絶対いけないんだけど、ご先祖さんの霊体だから人格神(じんがじん)なんです。

まだもつと上があるんですよ。これは宇宙創生、生成(せいせい)保育(ほくご)の一番最初に物を生み出した自然の働き、そういう一つの力(ちから)というか宇宙(うちゅう)のエネルギーが、もう絶対的なものです。我々人間にはどないも出来ないし、上(かみ)にあんねんから上(かみ)まなんです。科学(かがく)であれば色々の言葉(ことば)で説明(せ明明)するかも知らんけど、そんな面倒(めんどう)くさいのよりも、いつそのこと「加美さま」と言うた方が楽(やす)なんです。

我々の心臓(こころ)がこつんこつんこつん動いてるの

も、加美さんの力です。自然の心、自然の氣、自然のエネルギーとか、自然の働きの色んな条件によって、人類という動物がこの地球に湧いて生まれてきてるんです。人間が勝手に出来たんじゃありませんから、その自然の心に我々が沿っていかなければ、我々自身が不幸になることはお決まりなんです。

一つの肉体を持って一旦生まれてきた人が死んで、霊の世界でまた生活しているんです。その霊界人は、肉体を持っていない現界人と密接な関係を持たなければ幸せでないですよ。また現界人も、常に霊界と交渉を持たなければ幸せにはいかないんです。霊界人と現界人とが共に手を結んで、宇宙の創生の大加美さんに対して絶対的に帰依するお祈り、これが本当のお祭りなんです。

霊界の人達が我々人間に対して向こうから遊びに出て来てくれている。また我々は集まって霊界人とここでまた遊ぶ。祭りということとは、「まっしろい」ということなんです。今の言葉で言えばレクリエーションが知りませんけれども、そこに非常に清純な娯楽が入っているんです。岩戸神楽というのも、お祭りなんです。

そういうように現界が今日と決めておりますから、霊界も歩調を合わせて、大倭の霊人もあなた達の祖先とか関係のある霊人も、何万という人達がみな二十三日は大倭へ集まって来てるんです。今日までの日本の神社というものは、一番最初が人間の住まいと同じような天地根元造りのお社の形から、最近では春日造りとかあるいは大社造りとか形は変わってますけれども、生きてる人間がその中に住まいしているんだという感じでお社を造っているんです。それは人格神で、肉体を持っている我々と最も身近な人間同士であるんです。

宗教の根本

霊界人にも現界人にも、みんなその人の命、いわゆる分、使命というものがあって、その分相応のことをやればいいんです。それでお互いに自分の使命を果たして、霊界・現界を結び付け両方が幸せになっていく。今はそういうようにぼつぼつと浄化していく段階に入っておると思うんです。

仏教なんかの、末法濁悪の未来というように世相を捉える説明もありますが、今はとにかく我々現界人の枉罪、色んな悪い想念がみな出て来ている。また霊界人も過去に犯した色々な枉罪がみな出て来る。その霊界人の枉罪は現界人が背負わなきゃならないし、現界人の枉罪は霊界人が背負わらうとるんですよ。これはもう両方が織りなすような形になっておるんですから非常に難しいんです。

大倭の我々はね、宗教ということの本質的な意味どうこうじゃなしに、まず自分というものが人間的に向上していく、言い換えれば宇宙の心、自然の心に沿うように自分で自分を練磨していくというのが一番大事だと思っんです。

我々がなぜこの大倭にやって来るか、集まって一体何をやるか。大倭へみんなが来て、「わしはあの人は好きやけど、この人嫌いや」というような癖があるようでは、大倭の人間としての資格はないわけです。

けれどもね、本当は癖のある人、あるいは角のある人ほど来ればいいんですよ。そしてお互いに錬磨して自分の角を取り、人に対する好き嫌いを無くしてどんな人でも仲良いうける、そしてお互いに尊敬し合うことが出来る、そういう自分に

なることが大倭の宗教の根本なんです。

お経を百曼陀羅上手にあげたって、宗教的な哲学を知ったってね、ここでは通用しません。それよりも、どんな人を相手にしても、「あの人はええ人やな、自分もああんりたい」と言われるような自分を作り上げていくんですね。ちよつとおこがましいんだけど、言わなきゃいけないから言うと、私は大倭の霊界を代表して現界に出て来ているんです。矢追日聖という人間を一つの理想像としてもらいたいと思います。

私が偉いから尊敬せいか、俺のまねをせいでいう意味じゃないんですよ。『紫陽花邑』の半生記は上っ面だけだとしても、あれを読んでもらったら、この年齢までの間に打たれ叩かれしてきたことが分かります。私の努力ばかりと違う、今日の私という人間を霊界が半分こしらえ上げてくれたんです。

だから結局、死ぬまで未熟ですけども、宇宙の心、加美さんの心に近い、生きた手本というのがここにあるんですから、大倭に来られる方は自分もそういう型の人間になろうと、出来るだけ近づくように努力してもらえばいいんじゃないかと思っんです。

私が今日までどういうような歩み方をして、どういうような心境で現在おるかということも、研究の対象してもらっても結構です。その代わり、知識あるいは観念とかじゃなしに、自分の血肉にするというような観察の仕方をして欲しいんです。

一番身近なことでは、自分が偉いんだという優越感、わしはもうアカンという劣等感、まずこれからはずして欲しいんです。今日の月次祭の、この中に偉い者は一人もおらんし、アカン者も一人もおりませんからね。

「神通力如是」の真意をさぐる 第八回 大倭教の源流にさかのぼって

前回、昭和16年11月9日朝の天鈿女のお話
ドに続いて、今回は同じ日の夜の神語りのお話
です。

この夜は奇稻田姫、倭姫に続いて建速素戔嗚命
(タケハヤスサノオノミコト)が登場します。

倭姫と奇稻田姫とのやりとりのあと、奇稻田姫
の「悪魔退散」の命を受けて建速素戔嗚命が大急
ぎで悪魔退散に出かけるという構成になっていま
す。

今回は註釈文のあとに、「悪魔」、「退散」、「題
目」といったことの意味を、さらに掘り下げて考
えてみました。(三人の会)

原文

同日、午後七時、於鳥見庄山

①「国家御祈願」合掌

「吾レハ、奇稻田姫ナリ。

皆者、大倭鷄ノモリ、大八洲島日ノ
本ノ、國家安穩ノ御祈願ヲ致セ。今、日
ノ本ハ一イマ日ノ本ハ一、イマ日ノ本
ハ一、ヤミー。皆ノモノオン題目
供養——ナムミヤウホウレンゲキヤ
ウ、題目、、、、
礼ヲシテ

「吾ハ倭姫。悪魔、退散、神楽ソウシ申

サン」題目手舞

「悪魔——退散——豊葦原ノ中津国、オカス
ル悪魔タイサンイタセー」

合掌

「吾レハ一、大倭鷄ノモリ、タケハヤス
サノオ一。

吾レ命ヲウケ、コレヨリ悪魔タイサン
ニハセサンズルニヨリ、皆ノ者題目ト
ナヘアレー。吾ハ征ク、皆ノモノ一、オ
ン題目唱へ候へ。豊葦原ノ中津国、吾ガ
日ノ本ニアザナス悪魔、コノ剣モテ退
散クレン。ヨクヨクコノ旨ヲビテ皆ノモ
ノオン題目トナへ候へ」

「吾レハ、倭姫ナリ。ミ神楽ソウシ申サ
ル。オン前シバシケガシ奉ル」題目三唱、
アーアーアー

「ヤスラケキ一、大八洲島、天津日ノ本ア
ダナス悪魔、ワレ題目ノナナ字ヲ、唱へ
退散イタサセン一。皆ノモノトモニ題目
供養、才願ヒ申ス。倭姫オネガヒ申ス」
題目手舞

「スメラーミオヤーゴアンドメサレ。天
津神国津神トモニ唱へ申サン。題目、、、
国タミヨ、メザメ候へ。悪魔退散オン題

目」ナムミヤウホウレンゲキヤウ、神楽
手舞「天津神、風ノ神ヨ、ワレ征キテ
悪魔退散イタセー」

「オン前ケガシ奉リ、オユルシアレー。
スメラミオヤ、ゴアンジメサルナ。コレ
ニテオイトマチヨザイ仕ル」拍手

附言 建速素戔嗚命、白衣、白馬にて征
き給ふ、諸神之れにしたがふ。

近頃朝の太陽色変じ乳色、夕日紅の如
し。

註釈

①「国家御祈願」この夜(11月9日)の神語り
の第一声は「国家御祈願」であり、後ににつづく
言葉として「今、日ノ本は闇」とある。

『日本史年表(歴史学研究会編)』によれば、
昭和16年11月5日には御前会議で「帝国内策遂
行要領」を決定し、同11月27日には日本海軍が
旧千島ヒトカップ湾よりハワイ、パールハー
バーにむけ攻撃のため出港とある。まさに日米
開戦直前の闇の時代であった。

ただし、後に語られる「神通力如是」の内容か
ら推して、大倭太加天腹の霊界から見ると、こ
こでは単に日本の戦勝を祈願することではな
く、日本国内における闇の勢力を排除するため
の御祈願と思われる。

②供養 サンスクリット語のプージャーナー。本

来は仏や諸神に供物をささげること。ここでは真心から題目を唱え御供養とすること。

③悪魔 「仏語。『円覚経』に悪魔及び諸々外道心身を悩ます」とある。成道を妨げるもの一切、ひいては人類の幸福を妨げるものをいう。キリスト教のサタンとほぼ一致する。

〔角川古語大辞典〕による）
歴史上鎮魂されていない霊界の邪悪な想念が現じる勢力のことであり、霊界の段位が修羅道以下の霊人たち。

ここでいう悪魔が現界に存在している時期は、昭和6年からの15年戦争の第三段階（太平洋戦争）の頃である。

④タケハヤスサノオー建速素戔嗚 イザナギ、イザナミの御子、性勇猛、姉神天照大神の宸怒に触れて出雲に流され簸の川上に妖蛇を討ち稲田姫命と宮居し給ふ、出雲神族の祖と称される。

（平凡社『大辞典』による）
以上はスサノオ命に関する一般的な内容であるが法主の説かれるスサノオ命とは違っている。一例として『とおやまと』紙平成25年9月号に載った平成4年9月6日大倭神宮月次祭での法話から引用してみよう。

《日本民族の本当の祖神》

大倭神宮では奇稲田日女命さんをお祀りしています。日本民族の祖神です。しかし日本の歴史の中では、ここは全部抹殺されています。

須佐之緒命さんという人が八岐大蛇を退治して奇稲田日女命を助けたという伝説は、皆知っているやろ。あれ、本当はヤマトの三輪の出雲（※桜井市）の話なんです。後に歴史をつくった人が山陰の島根根の出雲の方を本家のようにしてしまっただ、同じイヅモやから。

奇稲田日女命はヤマトの地で生まれたお姫さん

です。それに対して、須佐之緒命は海の向こうから日本に渡って来た外来の人です。海岸から見た時に、空と海がへばりついてるわな。そこへ船が来ると天から降りてきたように、古代の人は考えた。海も天も「あま」ですから、高天原から来た神さんという話になってるけど、外来の神さんということですよ。二人は、言うたら国際結婚しはった。

八岐大蛇伝説を、人間として考えた場合ね。三輪の周辺は宇陀とか柘植とか、南の方は吉野とか、たくさん部族がおったと思うわ。その時、自分の部族同士は結婚しない。略奪結婚の慣わしはよくあったんです。頭が八つある蛇が出て来て、年毎にお姫さんを一人一人食べたというのは、あちこちの部族に連れて行かれたという話やと思う。お父さんが足名稚、お母さんが手名稚という一つの部族で、八人のお姫さんがいたけど、今度は最後に残っていた奇稲田日女さんが取られると泣いている時に、たまたま遠い海の向こうから日本にきた、非常に武力のある人が助けたと、そんな物語やわね。

抹殺された歴史

その部族の執念があつて三輪の出雲には居られないので、奇稲田日女命は須佐之緒命と一緒に鳥見の方へ移って、大倭神宮のこの場所に住まいて、ここで亡くなつておるんです。

奇稲田日女の腹に入つて生まれたのが饒速日命です。だから饒速日命も日本の祖神なんです。饒速日命の別名が大国主命で、同じ人なんです。大国主命というのは大王という意味合いやわね。ヤマト即ち近畿一円を治めてはつたんです。

大倭神宮のある土地の名前が長曾根、だから饒速日命から続く歴代の大王（スメラミコト）を長曾根日子と言いました。「オヤマト」がなまつて、

「ヤマト」、「オオヤマト（大倭）」というのは「オオオヤマト（大親元）」ということですよ。そういうことが、奈良朝の始め頃に出来ている『古事記』や『日本書紀』というような日本の歴史書では抹殺されている。九州から出てきた神武天皇の方の血筋をきれいにしてしまうとすれば、それ以前のヤマトのスメラミコトのことは全部抹殺しなければ歴史上真合が悪いんです。天照大神が日本の祖神であることになっております。

けれども現在でも、村の鎮守の杜の氏神さんや、日本全国の神社のご祭神を見たら分かる。ほとんど須佐之緒命か奇稲田日女命か饒速日命（＝大国主命）が主祭神です。神武天皇がヤマトへ来られる以前に信仰しておつた神さん、皆の心にあつた神さんを祀つておるんです。天照大神が奉斎主神というお宮さんは、伊勢神宮の他にはあんまりないですよ。

ところがそういう人達が、日本の表に出ていないために鬱勃として不平不満で、霊界に居るんです。今の時代に、私が結局、それを日本の表に出さなければならぬ。

⑤剣 ここで言う剣とは「三種の神器の一つ。記紀で素戔嗚尊が退治した八岐大蛇の尾から出たと伝えられる剣」（岩波書店『広辞苑』による）である天叢雲剣（草薙剣）のことと思う。

⑥国タミ 国タミとは、日ノ本に生を受け霊界にもどつた人々。

⑦天津神、風ノ神ヨ ここでいう天津神とは、霊界に於ける人格霊の集団ではなく、霊界の龍神界のことで、風の神とはそこにいて風の働きを司る龍神のこと。この龍神は祓い清めの風をおこす存在である。

⑧ワレ ここでは二人称をさす。大阪南河内等の人々は今でもこの様にこの言葉

を使用している。

▼さらに掘り下げて考える

註釈文を三人で作り終えてから今回の原文全体の意味を考え直してみた。さらに理解を深めていただくために、私見であるが、ここにいくつかのことを書いておきたい。

限られた本文の字数の中に「悪魔」は八回、「退散・タイサン」も八回、「題目」は字数以上に妙月が音声で何度も発せられたことと想像してもらえらると思う。

始めに霊界で「悪魔」と称される存在とは如何なるものなのかを考えてみた。

法主は私達に霊界の状態を説明する時に、よく仏教で説明される十界の言葉を使っていた。それにならって考えると、私には「悪魔」とは十界の第四段階「修羅道」以下(3)畜生、(2)餓鬼、(1)地獄)にある霊界人のことであると思われる。本文にあるように霊界では悪魔と言われる存在も「退散させるべき」ものであって、「スサノオの剣」をもってしても、それで切ったり、殺したりすることではない。退散させるべき悪魔に対うべき「力」は、七文字の題目なのである。

この題目とは(神通力如是の二回目、註釈⑤を参照)、霊界ではどのような存在なのかを考えてみたい。

その参考に、少し先走って神通力如是の原本14頁にある十一月十二日の午後八時の神語りの一部を書いておきたい。原本では「吾ハ、大倭鴉杜二坐ス、奇稲田姫。皆ノ者、ヨク承ハレ、南無妙法蓮華経ノ七字ハ宇宙ノ大真理、法華経ノ題目デモナイ。吾毛唱ヘム…後略…」とある。

題目をもって悪魔を退散させてはいるが、上位の霊人の力をもって下位の霊人を鎮魂させるとは

言っていない。

退散させることと、鎮魂することとは本質的に違うことなのである。

「鎮魂する」ということについて、法主のご存命中に、お尋ねしたことがある。

「法主さんは霊魂を鎮めるとよく言われますが、もし法主さんがいなくなったら、そういうことはどうすればいいんですか?」と。

法主はいとも簡単に、「そんなもん、生きてるおまえ等が、したらええやないか」と答えた。そして「わしが生きてる間は、鎮魂することは出来るが、霊界に帰ったわしは直接困っている霊人を鎮魂することは出来ない。それは宇宙の仕組みから、しゃあない」と続けた。「鎮魂することができるのは、生きてる人間が、困っている霊と法主(日聖・ひのひじり)とを繋げる(こと)によつてだ」とも。

つまり生きている我々が本心から、霊の存在を信じられれば、誰でも出来ることだと、私はそう理解するようになった。

また、いつかの月次祭の法話の中では「先祖を大切にしている人であっても、その人の心も浄化される必要がある」と話されたこともあった。

心の浄化を考える時、法主の言われた「人間は生きてる間は修行や」の一言を思い出す。

表現をかえれば、「顕幽(あきゆう)は不二(ふじ)であることの実実を納得し、「奈母(なぼ)太加天腹(たかあむ)の六文字に示されている宇宙の真理に近づいていければいいのではないかと思う。

少し話がずれたかも知れないが、「退散」について考えるには、法主に話していただいた先の話を忘れるわけにはいかなかった。

本文(原文)に言う悪魔が退散させられない状況では現界の日ノ本は「闇」なのである。つまり

現実の(昭和16年11月9日)日本は軍国主義の時代であり、本来の「スメラミコト」であるべき昭和天皇が周りの権力者達に「現人神」(あらひとがみ)にまつり上げられてしまっていた。

この現実を霊界の奇稲田姫が「闇」と表現されたのである。霊界で悪魔と言われる霊人達が多く現界に転生し、時の日本の中枢を占めている、その日ノ本のことを愁えておられるのではないかと思う。

そしてこの「闇」にある日本に光がさしてくるのは昭和20年8月15日・終戦の日を待たねばならなかった。(杉本順一)

こだまことだま

新潟県佐渡市 大滝 哲也

『とおやまと』6月号を)さつき見に行きましたが、まだ来ていませんでした。多分今夜あたり届くと思います(佐渡の宅配便の場合、山間地の配達はいつも後回しにされます。経営が赤字で他の支店に助けられているそうなので、それを聞くと文句が出なくなります)。

平田さん、私も驚きました。5日がお通夜だったので参列してきました。次男の和太龍君(喪主※なお6月号訃報記事は間違い)が市会議員に当選していたせいか、人が多いのびびくりしました。ご家族皆さん気を落とされてはいても、お元氣そうでした。佐渡ではまだ感染者が出ていますが、ほぼ全員マスクをしていました。していませんのは私くらいでした。買いに行ってもどうせ売り切れだろうと思って持っていなかったのですね。どこも大変みたいですね。特に飲食業、観光業、音楽・演劇関係が深刻なようです。

7月号の法話の最終推敲、もうしばらくお待ち下さい。

あじさい日誌

6月15日 大倭神宮月次祭。

6月21日 大倭会文化行事が行われました。左に報告記事。

6月23日 大倭大本宮月次祭。

この日は昭和37年6月23日の法話をお聞きしました。(平成13年『とおやまと』6月号に「天地自然に相通する心」として掲載分)

6月25日 午後2時から教務本庁で本紙編集会議。浅井克明さん(奈良県橿原市)が都合のつく時は参加してくれることになって、この日初参加。

6月26日 徳田典子さん(群馬県前橋市)より、「おかげさま

第346回大倭会文化行事報告

石上神宮を訪ねて

あじさい色 李 章根

6月21日夏至、快晴。10時天理駅に参加者11名集合。岸田哲さんの車で神宮へ。出迎えたのはたぐさんの鶏達。岸田さんの説明を受け各所参拝。法主様は布留の神奈備には悠久の太古から大龍神が鎮まつておられるという。(すさのお28号・とおやまと522号大倭千一夜参照) 拝殿から布留山の森を通り抜け山の辺の道への行き返り小雨あり、思わず合掌する。ハタの滝や深く青の紫陽花が美しい。

で今日好弘(弟さん)の五十日祭を迎えることができました」とのことでした。

7月6日 大倭神宮月次祭。大雨の中、行われました。

大倭会館で午後6時30分から邑倭の会が行われました。

7月7日 教務本庁で午後2時から本紙編集会議。この日は故中村昇次さん(昇ちゃん)の誕生日だったので、林修三さんが供養にとドーナツを買ってきてくれました。

また佐渡市「桃華園」の平田緑さんから杉本さん宛の手紙を皆で読ませて頂きました。

「弘之にステキなおくり名をつけて頂き(※神倭日侶由希比古命)、ありがとうございました」

法主様遺稿「大倭神宮伝承の紀 後編 一下には「第十代崇神天皇の五年に、国内に疫疾が流行し、民の死亡する者大半に及び、さらに流離背叛が多かったので、天皇は六年に、皇女の豊鍬入姫命に天照大神を八咫の宝鏡、叢雲の靈剣と共に、倭の笠縫邑に於いて奉祀させ、大倭大魂大神を倭の市磯邑に遷座して皇女淳名城入姫命に奉祀させられた。また建布都の祠を倭の石上に建て、大倭登美の可美真手命の奉献になる十種の神宝を併せて祀り、永き国家鎮護のためと崇められたようである」と。

た。

『とおやまと』6月号では、訃報、編集後記を書いて頂き、皆様のお力、ありがとうございました。それを読んだ友人から

ハガキが送られてきました。本当にたくさんの人から愛され、親しまれてきた弘之でした。

これからもよろしくお願いいたします。(一部省略)

2020・7・2

大倭安宿苑では(菅原園)

6月12日 コロナ対策で参加人数は制限して、久しぶりに車椅子清掃のボランティアさんが来られました。

皇居内に奉斎してきた二柱の大祖神を殿外に別々に奉斎されたことは今の日本に繋がる一大事が起きたのだろう。

天理参考館見学後、昼食。二次会の話になった時、文化行事には不参加の杉本順一さんから林修三さんへ電話。「天理の白狐さん(霊体)と一緒に連れて行ってと言うてはる」とのこと。夕方、日食有り。



(須加宮祭)

7月2日 7月生まれの誕生会、歌や紅白まんじゅうでお祝いしました。

(長曾根祭)

6月18日(特養)フロアを折り紙の紫陽花で飾り付けました。

7月1日(デイ)短冊に願いを込めて笹に飾り付けました。

(茂毛路園)

6月11日 大きな声で元気よく「ピアノでうたおう」。歌に合わせ手の運動も行いました。

(八重垣園)

6月 外出を控えている中、館内放送のラジオ体操や紫陽花見物の散歩をみんなでしました。

あんない

*月次祭(大倭神宮)

8月6日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第619回祝会

8月9日(日) 大倭大本宮境内の清掃神事として午前9時より。なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。

*大倭教立教開宣祭

8月15日(土) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大本宮)

8月23日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

東光大祭 祭典のご案内

令和2年9月2日(水曜日)・旧7月15日

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。

正午から、奥津斎庭において祖霊祭が行われます。

祖霊祭が終わり次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡ししますが、**密集を避けるため、後日、お越し下さるのはありがたいです。拝殿に予約しておきます。**

祖霊祭の間、拝殿では法主様の東光大祭でのご法話や紫陽花邑の記録映像等をご用意します。

【注意】

祖霊祭の経木への書き込み受付は8月10日までとさせていただきます。